「あったらいいな」の実現に挑戦してきたセブン銀行の20年

私たちの原点

「セブン - イレブンに ATM があったら…」そんなお客さまの想いにお応えし、セブン銀行が誕生したのは 2001 年のこと。以来、「いつでも、どこでも、だれでも、安心して」ご利用いただける ATM サービスの提供を通じ、安全かつ効率的な決済インフラの構築に努めてきました。20 年を経て、国内 ATM 設置台数 2 万 5 千台以上、1 日約 230 万人のお客さまにご利用いただく、社会インフラの一つへと成長。お客さまの「あったらいいな」は、いまもセブン銀行の変わらぬ原点となっています。

2001年 7月 ATM設置台数が1,000台を突破
2005年 4月 ATM設置台数が10,000台を突破
2007年12月 47都道府県へのATM展開完了
2014年 7月 ATM設置台数が20,000台を突破

テクノロジーと人の力で、常識を跳び越える

ATM で電子マネーやキャッシュレス決済へのチャージができるように。スマートフォンのみで ATM の入出金取引ができたら――いくつもの日本初への挑戦を通して、セブン銀行は金融サービスをもっと便利で、身近なものにしてきました。今、私たちは金融サービスの枠を超え、ATM でマイナンバーカードを使った手続きも開始しています。

2007年 9月 ATMで電子マネー『nanaco(ナナコ)』のチャージ開始
2017年 3月 スマートフォンによるATM入出金サービス開始
2017年10月 リアルタイム振込サービス提供開始
2018年10月 ATMで交通系電子マネー等のチャージ開始
2020年 4月 即時口座開設が可能なスマホアプリ「Myセブン銀行」開始
2020年 8月 ATMでマイナンバーカードでの手続き開始(マイナポイント申込み)
2021年 3月 ATMでマイナンバーカードでの健康保険証利用の申込開始

あらゆるお客さまにもっと便利に

視覚障がいのある方にも安心して ATM をご利用いただけるよう、音声ガイダンスサービスを導入。また、日本を訪れる方が快適に過ごせるよう、海外発行カードにも早期に対応し、空港の制限エリア内に ATM を設置しました。一方、日本で暮らす外国人の方が、安心して母国等へ送金できる海外送金サービスも提供。ATM 画面やコンタクトセンターでは多言語で対応を行っています。多様な人が多様な形で活躍する時代。あらゆるお客さまにもっと便利な日常を生みだし続けていきます。

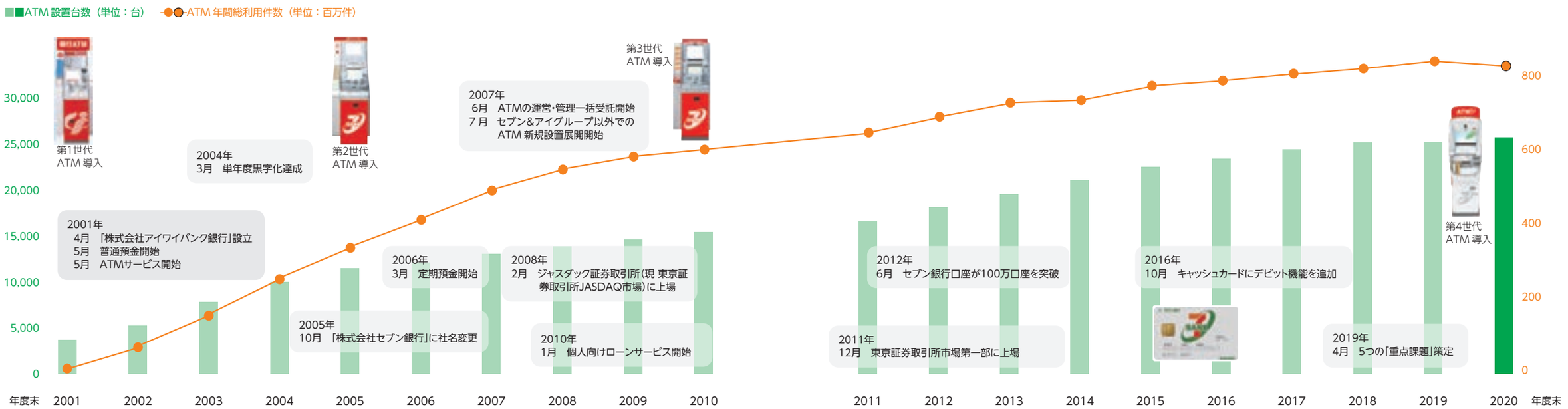
2007年 7月 海外発行カード対応サービス開始
2007年11月 視覚障がいのあるお客さま向けサービス開始(音声ガイダンスによるATM取引実現)
2011年 3月 海外送金サービス開始
2013年 2月 海外送金カスタマーセンター(現コンタクトセンター)稼働開始
2014年 1月 海外送金サービスのATM取引画面および海外送金カスタマーセンターでの9言語対応開始
2015年12月 海外発行カードのATM取引画面、明細票などを12言語対応に拡充

独創的な新しい価値づくりへの挑戦

変化を捉え多様化するニーズに対応し、時代とともに変わり続ける――それがセブン銀行 20 年の歩みです。現金の入出金からスタートした ATM サービスは、今や銀行口座がなくても現金の受取りが可能になり、ATM 運営で得た知見を活かし海外にも事業を展開。また、金融サービスで培ったノウハウは、事務受託サービス、金融犯罪を未然に防ぐ不正検知、セキュリティ対策、さらには外国人居住者向け金融サービスなどに活かされ、収益構造に厚みをもたらしました。子会社を含めたセブン銀行グループは、従来の銀行サービスの枠を超えた新しい価値づくりに挑んでいます。

2012年10月 米国でのATM運営事業開始(現FCTI, Inc. の完全子会社化)
2014年 7月 事務受託事業開始
2015年 8月 インドネシアでのATM運営事業開始
2018年 5月 「ATM受取」提供開始
2020年 8月 外国人居住者向けクレジットサービス開始
2020年10月 不正検知プラットフォーム提供開始
2020年10月 外国人居住者向け目的別ローン開始
2020年12月 オンライン本人認証提供開始
2021年 2月 フィリピンでのATM運営事業開始

※上記は、子会社による事業またはサービス提供です。



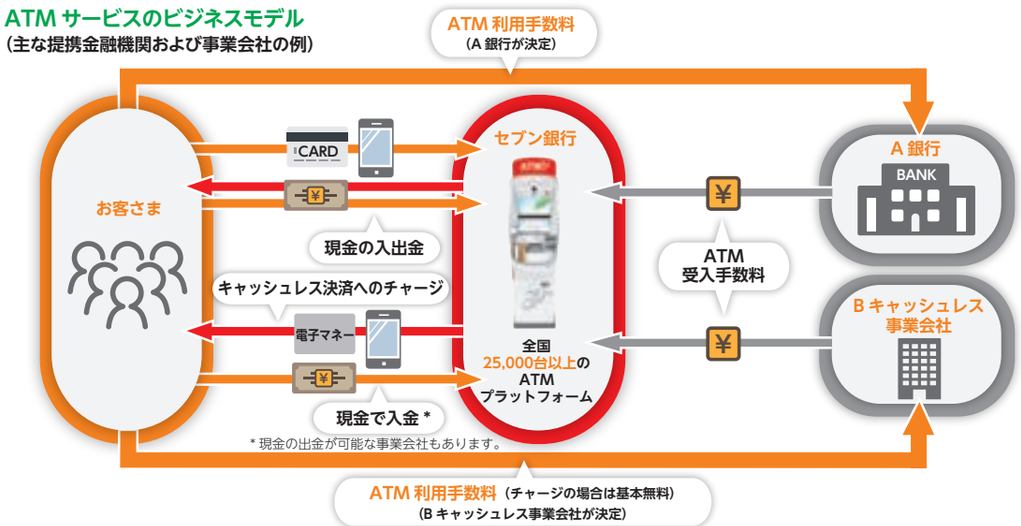
競争優位の源泉となる経営資源

セブン銀行グループは「いつでも、どこでも、だれでも、安心して」使えるATMプラットフォームの拡充を通じて、全国の提携金融機関等や事業パートナーとの強い信頼関係を築いてきました。銀行としての金融サービス提供機能を有するとともに、安心・安全なATMサービスを中核とするユニークなビジネスモデルを構築しています。

いつでもそばにある社会インフラとして

セブン銀行グループは、さまざまな事業パートナーとの連携により、原則24時間365日止まらないATMを実現するシステムやそれを支える体制を整え、安心・安全なATMネットワークを構築しています。
セブン-イレブンをはじめとするセブン&アイグループの各店舗に加え、空港や駅、商業施設、観光地等に設置した全国25,000台以上のATMは、1日当たり230万人以上のお客さまにご利用いただいております。従来の現金入出金取引に加え、デジタル化の進展に伴い多様化する決済ニーズに対応したキャッシュレス決済への現金チャージ取引は、利用件数を大きく増加させています。
今後もセブン&アイグループとのシナジーを活かし、物理的な近さだけではなく、心理的にも「近くて便利」な金融サービスを実現していきます。

ATMサービスのビジネスモデル
（主な提携金融機関および事業会社の例）



成長の基盤となる主な数値

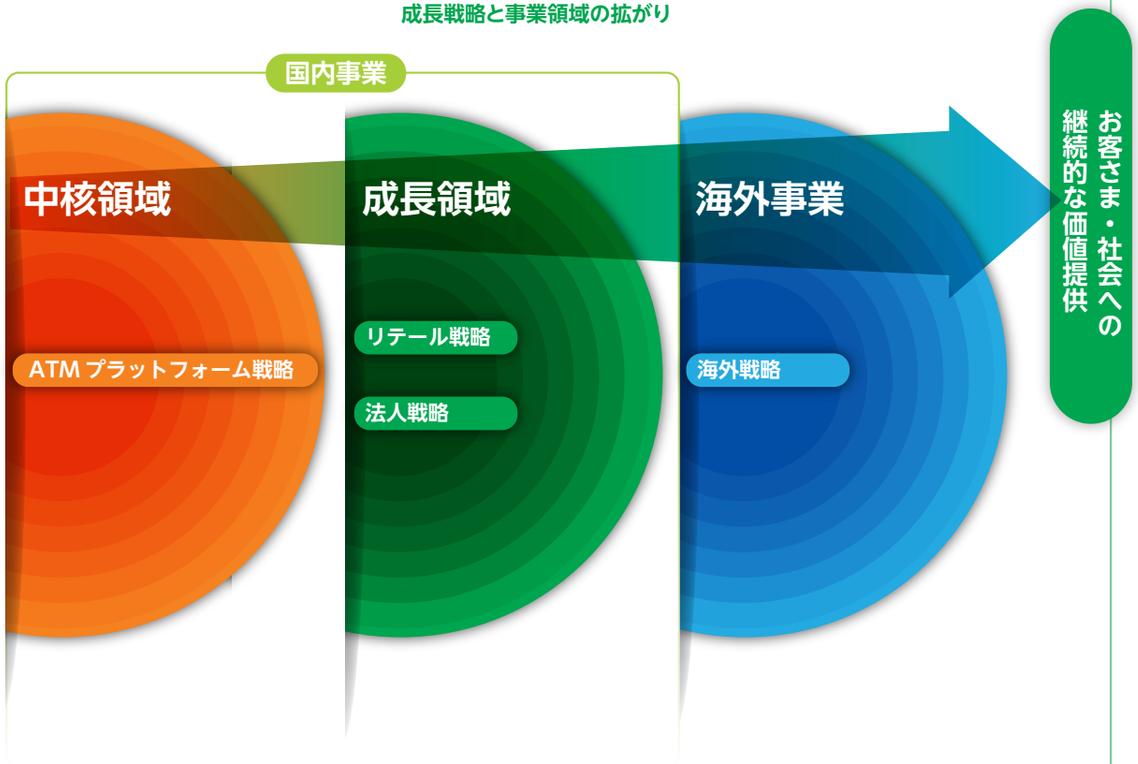
ATM設置台数（2021年3月末現在）
25,676台
セブン&アイグループの各店舗に加え空港や駅、商業施設、観光地等にATM設置を展開

ATM年間総利用件数（2020年度）
8億3,600万件
現金入出金に留まらず現金チャージ等の環境変化に対応した新たなATM利用スタイルを追求

成長に向け事業領域を拡大

セブン銀行グループは、中核事業であるATMサービスに加え、セブン銀行口座をお持ちのお客さまを対象に、普通預金や定期預金、ローンサービス、海外送金サービス、デビットサービス等の身近で便利な決済口座サービスを提供しています。また、国内連結子会社を通じ、多様な送金・決済ニーズ等に対応した資金移動業、外国人顧客基盤を活用した外国人居住者向け金融サービス、銀行業務運営で培った知見を活かした事務受託事業やセキュリティサービスを展開し、事業の拡大に取組んでいます。
さらに、国内のATM運営のノウハウをベースに連結子会社を通じてグローバル化を進めています。米国ではセブン-イレブン店舗を中心に9,368台（2020年12月末時点）のATMを運営し、成長著しいアジアでもインドネシアに加えフィリピンでの事業を開始し、着実にATM台数を拡大しています。

成長戦略と事業領域の拡がり



提携金融機関等数（2021年3月末現在）
613社
日本全国の金融機関をはじめ、金融機関以外の事業会社との新規提携を積極的に推進

ATM稼働率（2020年度）
99.98%
原則24時間365日止まらないATM。万一の故障・トラブルにも迅速に対応

主要計数

特段の記載のない項目においては、2020年度もしくは2021年3月末現在の状況を記載しています。

ATM設置台数

国内 25,676台

海外 10,118台
（2020年12月末現在）

ATM年間利用件数

8億3,600万件

ATM平均利用件数

90.5件/台/日

ATM稼働率

99.98%

金融機関等における提携社数

613社

ATMをご利用されるお客さまの数

約230万人/日

個人預金口座数

236万口座

※ATM設置台数以外は国内のみの数値です

国籍問わず誰もが使いやすいシステム

海外送金サービス 年間送金件数

122万件 ※含 セブン・グローバル レミット社提供サービス

対応言語数

海外送金サービス

10言語 ※カスタマーセンター等

海外発行カード対応

12言語 ※ATM画面、明細票等

強みを活かした法人向けサービス

セブン・ペイメントサービス社 サービス契約社数

423社

バンク・ビジネスファクトリー社 外部からの事務受託社数

29社

環境性機能の追求

第4世代ATMの 対第3世代ATM消費電力

約40%削減

廃棄ATMの リサイクル率

約100%

多様な人材の活躍推進

障がい者雇用率

2.2% ※2020年度

育児休職後の従業員の復職率および定着率

100% ※育休中および復職後の退職者なし（2020年度）

男性育児活動休暇取得率

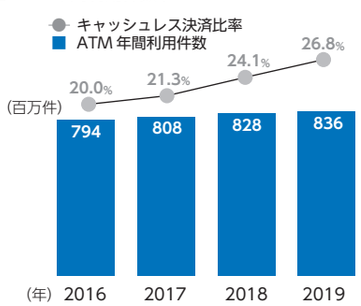
36.5% ※2020年度

女性管理職数と管理職に占める女性の割合

24人／18.1%

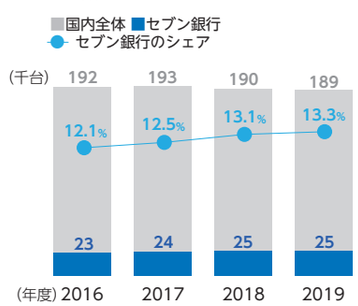
参考データ

国内のキャッシュレス決済比率とATM年間利用件数（1月～12月の年計）



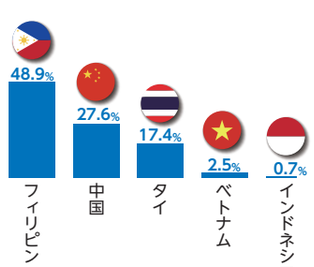
出典：経済産業省発表統計より作成

国内ATMとセブン銀行ATMの台数およびシェア（年度）



出典：当社調べ

個人による日本からの海外送金金額に占めるセブン銀行の国別シェア（1月～12月の2020年計）



出典：日本銀行発表統計より作成

財務ハイライト

特段の記載のない項目においては、2020年度もしくは2021年3月末現在の状況を記載しています。

強固な財務基盤

純資産金額

2015年度 1,847億円 ▶ 2020年度 2,346億円

自己資本比率

47.93%

効率的な資本マネジメント

ROE

11.3%

※ROE=当期純利益÷自己資本平均残高

キャッシュ創出力

EBITDAマージン

36.2%

※EBITDA=経常利益+減価償却
EBITDAマージン=EBITDA÷経常収益

営業キャッシュフロー

1,360億円

信用力

S&Pグローバル・レーティング

A+

格付投資情報センター（R&I）

AA

※2021年6月末現在は、下記に変更となっています。
・S&Pグローバル・レーティング：A
・格付投資情報センター（R&I）：AA-

利益還元

1株当たり配当実績

2015年度 8円50銭 ▶ 2020年度 11円

配当性向

49.9%

成長性

連結経常収益

2015年度 1,199億円 ▶ 2020年度 1,372億円

連結経常利益

2015年度 371億円 ▶ 2020年度 356億円

親会社株主に帰属する当期純利益

2015年度 247億円 ▶ 2020年度 259億円

1株当たり純利益（EPS）

2015年度 20.75円 ▶ 2020年度 22.01円

セブン銀行の価値創造プロセス

セブン銀行が大切にする価値観は、持続可能な社会に向けた「社会課題解決への貢献」と「企業価値向上」の双方の達成に対して「誠実」かつ「真面目」に取組み、「社会の期待と信頼」に応えていくことです。セブン銀行では、5つの「重点課題」を策定し、社会課題解決への貢献とともに新たなイノベーションの創出に挑みながら、より良い社会の実現および健全な事業の発展を目指していきます。

イニシアチブへの参加

- 国連グローバル・コンパクト※
- 21世紀金融行動原則

※ 2012 年より、セブン&アイ・ホールディングスは、国連グローバル・コンパクトの企業責任イニシアチブと、人権、労働、環境、腐敗防止の分野における原則への支持を表明しています。

セブン銀行のコア・コンピタンスとビジネスモデル

競争優位の源泉となる経営資源・無形資産

主要な経営資源

▶ ATMプラットフォーム
- 全国25,000台以上のATMネットワーク
- 原則24時間365日止まらないATMを実現するシステム・体制

▶ 提携金融機関等とのネットワーク

▶ セブン&アイグループ各店舗へ来店されるお客さま・店舗ネットワーク

▶ 銀行としての金融サービス提供機能

主要な無形資産

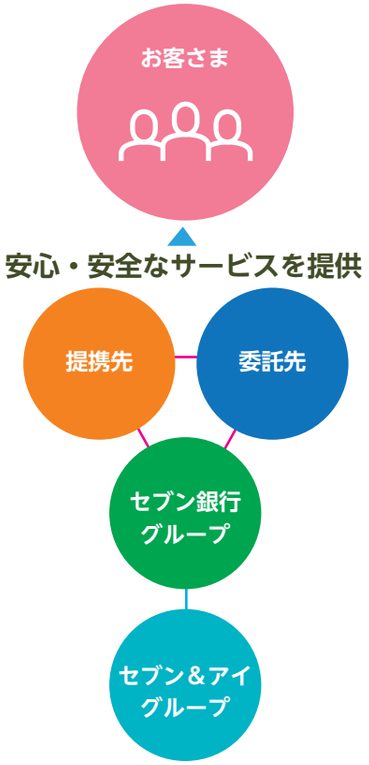
▶ さまざまな事業パートナーとの強い信頼関係

▶ セブン&アイグループとのシナジー

▶ 銀行としての信用力

▶ チャレンジしやすい企業風土・組織

セブン銀行のビジネスモデル



▶ いつでも、どこでも、だれでも、安心してご利用いただけるATMサービス

▶ 安全かつ効率的な決済インフラ

社会課題・変化

- デジタル決済の拡大によるセキュリティへの不安
- 金融犯罪の高度化・巧妙化
- 金融窓口やATMの減少

- 価値観、ライフスタイルの多様化の加速
- 金融商品へのニーズ変化

- ダイバーシティの推進
- 多様な人が多様な形で活躍できる社会

- 気候変動リスクの増加
- 環境負荷軽減に向けた各企業の取組姿勢の変化

- 日本で働く外国籍人口の増加
- 外国人居住者の生活基盤に課題

重点課題

1 安心・安全な決済インフラの提供

2 新しい金融サービスを通じた生活創造

3 誰もが活躍できる社会づくり

4 環境負荷の低減

5 多文化共生の実現

事業活動を通じ、
当社が持つ強みを活かした
社会課題解決への貢献と
企業価値の向上の
双方を達成